

# 大家好！我們就是女主角！！

〜皆さん、こんにちは！私たちはヒロインよ！！〜

作・加賀屋 淳

登場人物

広田 優子・ひろたゆうこ

本間 裕美・ほんま ゆみ  
そして  
その他、  
数役

暗い中で、フェリーの汽笛がなる。

一人の女性がゆっくりと浮かび上がる。

女1

台湾。基隆（キールン）。22:00。

私は月明かりに照らされた港に立っていた。私をここまで運んできた船を私は見送る。船は岸を離れていく。

沖繩へ向かうその船は凧いでいる海面に一本の航跡を引きながら離れていく…。まるで日本とこの台湾をつなぐ「へその緒」のように、太く、太く…。再見、日本（ザイゲン、リップン）。きつとまた、日本。私はここに立っている。私の匂いがあるこの土地で私は当分生きてみようとおもう…。

女1、髪を後ろできっちり束ねる。

続いてもう一人の女性がすこし離れて浮かび上がる。

女2

シート…。

そつと、誰かの手を引きながら明かりの中に  
入ってくる女2。

(後ろを振り返り)あ、東京タワーの先つちよ……。…静かだねえ…  
こうやって夜の海でぼんやりするのって久しぶり…。

…子供の頃、学校でいやなことがあるとうちの近くの浜辺に行って日が暮れるまで海を眺めてたの。ずつと沖を進む船なんか見て「あの船どこ行くんだろう」とか「この海の先にどんな人が住んでるんだろう」とか想いをめぐらしたりしてさ。波の音も心地よくてね。…そのうちね、自分が何で悩んでいたのかもわかんなくなってきたさ…。

レインボーブリッジが見えるこんな東京の竹芝の夜の海もあのいなかの浜辺につながってるんだよね…。

女1 裕美、その手、離しちゃだめだよ。その恋、お茶のお盆みたいに簡単に  
落っこしちゃだめだからね。

女2(本間裕美) はい。…優子さん、今日の海、風いでますね。穏やかな船出できそ  
うですか？

女1（広田優子） そうだねえ、一人の船出にはちょうどいい静かさだね。

…裕美、いつかまた！私はここにいますから。

裕美 優子さん、私はここにいます。また会う日まで。優子さんのこと、忘れませんから。

優子 私も忘れないから、裕美。

裕美 はい。

優子・裕美 私たち、…ヒロインだから。

汽笛の音と飛行機の音が交差し、ゆっくり暗転。

## 〈#1 出会い・会議室の優子〉

明かりが入ると、椅子に腰掛け苦虫を噛み潰したような顔をしている優子。そして、傍らに裕美が浮かび上がる。

裕美

私が彼女と出会ったのは会社の会議室。…あの奥歯がシクシク痛んでいるのを我慢してるような顔をして座っているのが、今回の主役「広田優子」さん。資料計画部の部長です。都内の某有名大学の経済学部を首席で卒業した

才媛で、29歳。二十代で部長になったのも、女性が部長になったのもうちの会社では前代未聞。昔ながらの男中心、年功序列型の経営スタイルで多くなつた会社が、こんな革新的になつたのには実は彼女の行動が大きく影響しているんですが……。まあ、それは追々お話しすることとして…。

私が広田さんと出会つた日の会議は、何か一発「ドカーン」（裕子、「ドカーン」にビックリ！の反応…）とインパクトが欲しくなるようなそれはそれだからだら効率の悪い会議でした…。

（ぶつぶつと）会議始まつて3時間よ3時間！この間決まつた議題はゼロ！  
そんなもつて会議が膠着したら…

裕美

「ま、この件は次の会議の優先案件として…」

優子

…つて、議事進行役のしまりのない澁みきつた声が会議室に漂う。単に面倒な事先延ばししてるだけじゃねーかよ！

裕美

（東京ビッグサイトのプレゼンテーションシヨンガールのようなわざとらしい言い回しで…）わが「毬谷商事株式会社」は家電製品のリモコン、パソコンのメモリースティック、マウスといった電気製品に関わる付属製品をつくつていてる会社です。わが社のような業務形態を OEM、Original Equipment Manufacturer といいます。最近では大手メーカーの委託を受けてインクジ

エットプリンターの製造・組み立ても行っております。この大手メーカーとの業務提携は、十数年前よりわが社より積極的に働きかけていた案件で、まさに「毬谷商事株式会社」にとっては長年の悲願だったわけです。

裕美、後ろ手に隠し持っていたミニくす球を出す。

そのひもを優子が引つ張ると、くす球が割れ、中からは、

「よくやった！ By 社長」と書かれた垂れ幕がおりる。

垂れ幕の先には、部長と書かれたハンカチ名札がくつついて  
いる

- 7 -

優子

ちなみにこの仕事決めてきたのは私。

(名札を胸に貼り付けながら)おかげで私は三階級特進の部長に上りつめた  
って言うわけ。：あ、ようやく会議が動いてきたみたい。

裕美

「:(声色を変えて)」では、次の議題に移ります。えー、昨年度下期に大阪  
支社から提案のありました、わが毬谷商事の福利厚生施設設立の件について

…」

優子

すみません、議題一つ飛ばしています。

裕美 「あ？ 飛ばしてますか？」

優子 三項目目、『海外生産拠点見直しについての再提案』です。

裕美 「・・・ああ、ありますね。・・・ん？ 広田部長のご提案でしたか。すみませんがこれは後でまとめて議論しましょう。」

優子 (ピッキーンツツッ！) ・・・後でまとめてえ？ どういうことですか！

裕美 「そういうことです。」

優子 そういうことって？

裕美 ・・・まあ、緊急を要する議題ではないという事でしょうか。

優子 『事でしょうか』と誰が判断されたんですか？

裕美 「・・・私、崎原です。」

優子 何の権限があつてそういうことをされるのかご説明願います。

裕美 優子さん、見た目はかわいいんですけど、人が瞬間的に「ムカツ」と来るような言いまわしが得意なんです・・・。「議事進行役としての権限です。スムーズな議事進行と、効率的な会議運営のためで・・・」

優子 腹の立つう！・・・(捲し立てるように) わが社で出資している中国や東南ア

シアの海外現地法人の生産拠点は軒並み人件費高騰によるコスト高で、当初予算に対し赤字すれすれの操業を強いられています。先の経営陣の判断で建



設された生産拠点は物流面では最高の立地条件でした。しかし、それだけの物流拠点であれば当然、地価や人件費の高騰は簡単に予測できたはず。誤解を恐れずに申し上げますが、これは先の経営陣の無策が会社に大きな損害を与えたということに他ならないのではないのでしょうか？」…スッキリッ  
ッ！

裕美

（ものすごいえらそうな落ち着いた口調で）「広田部長、ご発言には充分注意しなさい。言葉が過ぎるよ。」一番奥の椅子に腰掛けていた社長の一言。

優子、持っていた鉛筆を半折りにする！

半折りにした鉛筆を裕美が拾って、セロテープでくっつけて

補修している。

優子

テメエ、前のうすらボケのスケベ社長がずっこけたおかげで転がり込んだ社長椅子だろうが！ちっとはこのあたしに感謝しろっての……

鉛筆を優子に手渡す裕美。

(コロッと表情が変わって) …失礼しました。少々感情的になってしまいました。お詫び申し上げます。

裕美

「崎原部長、広田部長の提案を先に検討しようじゃないか。広田部長、君が言うその『会社にとってメリットのある場所』っていうのは？」

優子

はい。私からご提案申し上げますのはの台湾地区への海外生産拠点集約を主とした議題を提出いたします…。

裕美

(いろんな口調や言い回しで、) 『台湾!』『タイワン!』『たいわん?』『ワンタン?』『TAIWAN』…「台湾での生産はそれこそコストがかさむだろう」。

優子

はい。確かに。大陸において人件費が最も高いといわれる中国沿岸地区に対して十倍の人件費がかかると言われています。しかし、すでに台湾に進出している日本の現地法人がまとめたデータを見ますと、台湾で生産された製品は不良率が少なく、また生産工程が安定し時間的ロスが非常に少ないというメリットがある事が、お手元に配布した調査資料により明らかになっています。また、半導体やコンピュータといった情報関連の生産拠点は軒並み台湾に進出しています。これはとりもなおさず、台湾地区における情報関連製品製造の技術が飛躍的に向上していることが第一に挙げられるのですが、

それに加えて、現地採用の人々の仕事に対する誠実さや、日本という国に対する国民感情が極めて穏やかで…

あーだこーだ、というような反論とも雑音ともつかない周りの  
声が大きくなる…

♪ラプソディー・イン・タイワン・Vo.優子

あああーなんて めんどくさいの このオヤジたちは

何度何度何度もー同じこーとを繰り返し

なにが効率よメリットよ

コーヒーとバルカンと加齢臭が私をいらだたせる

あああーなんて くさいの このおやじたちは

まるで 春先の苔びっしりの中学校のプールを

洗濯バサミで鼻つまんで泳いでるみたいな

きもちよさーつつっ!

“ んなわけないでしょっ!”

いつの間にか、裕美が、お盆を持って立っている。  
お茶を配っている風。

裕美

ギャーッッッ！ す、すみません！

『なにをやってんだ君は！』  
すびばせんっっ！……。

優子、裕美のほうに目をやる。一瞬彼女の顔に釘つけ。  
直後、優子はなぜか笑いをこらえている。

『…常務、お洋服大丈夫ですか？…君、名前は？』  
はい、総務課の本間ゆ…。

『(言葉を割って)総務？…小林部長、どういう女子社員教育されてるんですか？…つたく、君はお茶もまともに配れんのか。いい歳して…』

キラーン！と、優子の鋭い眼光が光る。

優子 …… 崎原部長。「いい歳してお茶くみ上手」じゃないと、女子社員じゃないってこつてすかい。

裕美 『いや、そういうわけじゃ…』

優子 それと、あたし入社して7年、「社員教育」は受けたことありますけど、

「女子社員教育」って一度もうけたことがないんですが。それはどんな教育なんですすかい？

（さとう珠緒が乗り移ったように） …… ひよつとしてえ、あたしい、

「女子社員」じゃないんですかあ？

『…いや…』

優子 （復元して…） 崎原部長、改めて申し上げますが、今のような女子社員

対する発言は、わが社のコンプライアンス部が策定した「ハラスメント防止条項」のセク…

裕美 （割り込んで） 『皆さん、かなり時間もおしておりますから、今日はここで

一旦打ち切りましょう。 …… 社長、よろしいですか？ …… 進行役の崎原部長も

よろしいですな。 …… では…』

優子 大橋専務、ただ今わたしのプレゼン中ですが…

裕美

『広田部長、あなたの提案は今後の会社運営にとって実に興味深いものがあります。この提案は今週の取締役会での最優先議題にし、その結果を後日この経営会議で報告するというかたちをとらせてもらいます。それでいいでしょう？』

優子

…大橋専務、ご配慮ありがとうございます。

裕美

『それと崎原部長、会議が終わったらわたしの部屋へ来なさい。大切な話があります。では皆さん長時間の会議お疲れ様でした。じゃあ。』

会議が終わる。オヤジガヤ。

裕美

あの、広田部長、ありがとうございます。

「めちやくちやかわいい」という形容がびつたり笑顔を振りまく裕美。

優子

なんてお礼いったらいいか…。  
ああ、気にしないで。むしろくしゃしてたからちようどいい気分転換に

なつたわ。でも大丈夫、目真つ赤だけど。寝不足？

裕美

ああ、ちよつと寝不足で。あの…お礼させてください。ご馳走します。

何いいですか？…そうだバーミヤンで中国料理

優子

ああ、いい。中華街でお昼とつて来たから…。

裕美

じゃあ、品川駅のエキュート行きましよ、エキュート。おいしいコーヒー屋さんあるんですよ！

優子

…会議でずーつとコーヒー飲んでたから。

裕美

(鬼気迫つた感じで)とにかくなんかお礼させてください！お願いです！

優子

これじゃ私の気がすみません！ある意味、意地です。

5時過ぎだから仕事終わってるんですよ、さつさと帰りなさい。お茶くみのために残業する、なんて社内規定なんかないんだから。そんなときは残業拒否したっていいのよ。

裕美

…でもそんなことしたら小林部長に怒られちゃうから。

優子

小林？ あんなの恐るに足らないわよ。かつてにごちゃごちゃ言わせ

ときゃいいのよ。…ねえ、今日あたしのうちに寄つてかない？おいしいお茶飲ませてあげるわよ。

裕美

ほえーっ！すごーい！そうだったんですか？

優子 なによ、「そうだったんですか」って？

裕美 広田部長のおうち、カフェなんですか？

優子 なんでそうなるのよ。

裕美 だってお茶飲ませてくれるって。

優子 お茶なんてどこのうちでもあるでしょ。

裕美 ないですよ。うち牛乳しかありません。…でもちようど良かった。じゃあ、部

長のお宅でお茶いれてあげます。こう見えてもお茶の淹れ方上手なんですよ、わたし。せめてものお礼ですから。

優子 …ちよつとズレてるような気がするんだけど…。ま、いいか。

裕美 そうそう、あんまり小さいこと気にしないことですよ部長。

調子付いて、優子の肩をたたく裕美。

優子 何をえらそうに。お茶こぼしてさっきまでしょげてたでしょうが。ところで

あなたお名前は？

裕美 (とっさに)あ、みちゅーです。

優子 は？



裕美、ハツとして、

裕美 あ！…あのお…、ちよつと…そのお。

優子 みちゅーって言った？

裕美 …すみません！就業規則でバイト禁止って言うのわかってるんですけど、

優子 バイト？

さらにハツ！

（訳知り顔で）へえー。みちゅーっていう名前で作るバイトか。

…（脇においたコップの飲み物を飲もうとして）熱ッ！

ねえ、このコーヒーちよつと熱いんだけど…

（なんの躊躇もなく）かしこまりました。

裕美

一生懸命にカップの中身をフーフーと息をかけ覚ましている  
裕美。

「しまった！」

優子  
かわいいメイドさんね…。

裕美  
このことは小林部長にはだまつてもらえませんか？

優子  
あの…本名は、本間裕美です。

裕美  
もう知ってるかもよ。小林部長…。

優子  
ウソ。

裕美  
ホント。

優子  
…証拠は？

裕美  
ある…。

思い余った裕美、優子を襲う。

裕美  
それはまずいです。とつてもまずいです。

優子  
なんだかわかんないけど、とにかく死んでもらいます。

裕美  
今ここで、部長に生きてもらっちゃうと困るんです。

優子  
何で私が死ななきゃなんないのよ！あなた、このお芝居のストーリー展開が

破綻し始めてるのに気づかないの！

裕美

「ウイルパワー」…。「死んでしまえば何事もかなう」って言う意味です。

優子

それを言うなら「信じれば何事もかなう」でしょ。座長が悲しむわよ。

裕美

知るか、あんなダルマうすらハゲっ！

と飛び掛る裕美。

不条理な展開に優子、

優子

ちえすとおおおっつ！

と、裕美のみぞおちにパンチを見舞う。

裕美

む、無念…。

崩れる裕美。

優子

ということ…、酔っ払いが出現する時刻にはまだ早い品川のオフィス街を

## 《#2 優子の部屋》

私は氣を失った裕美を背負って家へ帰ったのでした。

暗転。

明かりが変わると、そこは優子の部屋である…。

下手側から優子。服装は部屋着に変わっている。

上手側から裕美。手には、缶ビールだの缶入り酎ハイが握られている。裕美は完全に出来上がっている。

裕美  
(優子に缶ビールを渡して)はい、ぞうど。部長、このメジャーおもしろいメジャーですね。いっぱい字書いてある…。

優子  
ああ、魯班尺(ろばんじゃく)っていつて、風水に使うメジャー。ものの長さを測って吉凶を調べるの。…ほら、赤い字と黒い字でいろいろ書いてるでしょ。この赤い字のサイズが吉、黒い字のサイズが凶の長さ。凶が出たらそれを好転させる為に長さを調節したり、凶が吉になるようなものを置いたり飾ったり貼ったりすれば良い。(半びらの紙を出して)ほらこれが、対照表へえ。…人間も測れるんですか？

裕美

優子

…うん。門公尺(もんこうじゃく)っていう建物の寸法も測れる上の目盛りで測る。で、下の目盛りが丁蘭尺(ていらんじゃく)って言って、インテリアとか持ちものを測るの。

裕美

ふうーん…。(と自分のあれこれを測る。)あー、酔っ払ってるから眼がしよぼしよぼする。なんだか良くわかんなくなってきた。ほんっとお酒に弱くてー、わたし。

優子

弱すぎるわよ！ たった一杯でこんなになっちゃうんだから。ところであなたがどこ出身？ お酒が強くない土地？

裕美

山形県は酒田市です。

優子

酒に弱くて酒田か。

裕美

知ってます、酒田？

優子

…ああ、知ってる。土門拳の記念館とかあるところですよ。大学の写真部の旅行で一度行ったことがある。

裕美

部長、写真部だったんですか？ じゃ、撮ってくださいよ、私のこの自慢のナイスバディーを。

と裕美、服を脱ごうとするが、優子にたしなめられて、

優子

やめなさいよ。

裕美

あ、(バストを魯班尺で測る)『財産が減少する』…。ちよつとすみません。

優子のバストを測る。

優子

なにすんのよ！

裕美

…『勝負運が良い』…(優子の胸を見つめ)勝負運がいいんだ…

と、裕美、優子の胸を触ろうとする。

優子

やめてよ！

裕美

でも酒田の本間といえば、かつて『すっごいいい加減な節で』本間様にはお

よびもないがせめてなりたや殿様に』と歌われたくらいの名家なんですよ  
っ！

優子

へえー、ご令嬢なんだ。

裕美

いや…分家の分家のそれから五つくらい先の分家なんですけど…。

(手のひらの大きさを測ったりしている。)そういう部長はどちらら出身なんで

すか？(あんまりいいサイズではない…。愕然)

優子 あたし？生まれも育ちも東京。

裕美 へえ。お母さんは？

優子 小さい頃に死んじゃった…。だから父の男手一つで育てられたの。

裕美 いままで良くがんばったね。この私の胸で泣いていいですよ、部長…。

優子 遠慮しとく。「財産が減少する」胸なんですよ。ところでさ……、

裕美 はい？

優子 会社じゃないんだから「部長」はやめてくれない？自分の家のリビング

で「部長」なんて呼ばれるとかたつくるしくて。

裕美 じゃあなんていえばいいの？「ゆうこりん」？

優子、裕美のおでこをたたく。

優子 馴れ馴れしいっ！なんで、いきなりニックネームなるのよ！だいたい

なんでわたしがゆうこりんなんて呼ばれなきゃなんないのよ。

裕美 かわいいじゃないですか。ゆうこりん。呼ばれたことありません？

裕美、今度は自分の足の裏を測っている。

優子　　ないわよ。大体ゆうこりんなんて歳じゃないし…。

裕美　　だって、なんかお礼したかったから…。

優子　　意味わかんないって！ああ…、「優子さん」でいいわよ。

裕美　　はい、わかりました。部長！

優子　　だから部長はやめろっていつてるでしょ…。

裕美　　すみません。

優子　　裕美さん、会社入って何年経つのか？

裕美　　短大卒業してからだから…八年、今年で九年目です。

優子　　えっ！そんなに？もうベテランじゃん。っていうか、あなたとあたし、

同じ年なんだ。

裕美　　そうなんですか？

優子　　大学ではなに勉強してたの。

裕美　　国文です。

優子　　へえ、国文かあ…。

裕美　　実家は、女の子であつてもちゃんと学問を身につけなきゃいけないって



言う教育方針だったから子供の頃から本ばっかり読ませられてて。

へえ。

そのうち自然に読書好きになって。で、高校卒業したら日本文学の勉強がしたくて、山形の南にある米沢の短大に入ったんです。両親は自分達の目の届く山形県内の学校に一人娘を置いときたかったみたいだったから。

お嬢だものね。

裕美　へへへ…。卒論は向田邦子。知ってます？作家の向田邦子。「阿修羅のごとく」とかの。

優子、「向田邦子」の一言に軽く反応する。

優子

ああ。……知ってるけど、なんで向田邦子なの？

裕美

父が好きだったんです。向田邦子みたいな凛とした女性、父、好きなんです。

優子

…。

裕美

あと、ちよつと怖いけど嚴格で父親が出てくるでしょ向田さんの作品って。

優子

「父の詫び状」に出てくる向田邦子のお父さんの姿なんて昔の父親像そのものだものね。

裕美 はい。父は男としてその厳格な父親像に憧れもあったみたいなんです。

優子 あなたのお父さんも厳しい人？

裕美 いいえ。(目じりを手で下げて)…こんな感じですよ。もう、我が家の小間使いみたいな父ですよ。わたし、父と仲良かったから、東京に就職するって言った時は父、一週間毎日泣いてました。

優子 家族に愛されてるんだ。…あたしは大学出て、入社したの。

秘書課を振り出しに七年目…。なんかイヤんなっちゃうよね。

年ばっかりとっちゃって。

裕美 …ところで…なんで私がメイドカフェでバイトしてるってわかったんですか。

優子 …その時が来たか。(会社用と思しきバッグの中から紙切れを出す。)どうぞ。

裕美 ! なんでわたしのメイド姿の写真を!

優子 この隣に写ってる人に返そうと思ってる。

裕美 あ、常連の「おはげとーちゃん」だ。…優子さん「おはげとーちゃん」と知りあいなんですか!

優子 うん。良く知ってる。あなたも知ってる。とーつても。

裕美、写真を凝視している。

裕美  
誰？

優子、ペンを取り出し、

優子  
ちよつと貸して。

と、写真に何か書き込もうとする。

裕美  
あ、この写真撮るのに一枚二千円するんですよ！

優子  
この人とのツーショット写真だったら明日あたり、あたしが撮ってあげるわよ。

裕美  
え？どういうことですか？

優子  
…ほら、ちよつと見てて。こうやって、メガネを書いて…。分からない？

首を振る裕美。

次に、こうやってハゲを塗りつぶすと…、

塗りつぶされた写真を見て愕然としている裕美。

裕美

小林…部長…。気づかなかった。

優子

あなたも全然別人に見えるから、鈍い小林部長はわかんなかったんだと思うよ。先週の会議のとき、会議室出るときに小林部長のノートから、これポロっと落ちたのよ。で、今日の会議の時に返そうと思ったらまた返しそびれちゃって。会議でお茶をこぼしたあなた見て、どっかで見たら顔だなんて思ったらこの写真のこと思い出したのよ。それであなたにちよつとカマかけちゃった。

裕美

…小林部長、丸ハゲじゃないですか。部長のかけるとこんな顔になっちゃうんだ。…わたし、部長にフーフーサービスしてたんですね…、「おはげ様、あーん」とか、口でポツキーのチョコとって食べさせてあげてたりしたんですね…。

優子

うわー、そんなことまでするの？メイドって。

裕美

(写真を測ると)…『災害に見舞われる』…。おはげさま…。

優子 …まあ、前の社長のご乱行に比べたら、小林さんなんてかわいいもんよね。

裕美 そうですよ。…思い出した、先代の経営陣総退陣事件！

優子 ああ、そんなこともあったね。

裕美 優子さん、私たち全女子社員の救世主ですよ。

優子 …酔い覚ましに、お茶出そつか。

裕美 あ、すみません…。

お茶の用意をしながら話す優子。

優子 だってひどかったもんあの頃の会社。下ネタばんばん、すれ違いざまに

お尻は触るわ。社長以下の管理職もう、乱れきってたもん。

裕美 エロエロ光線出まくってましたものね。

優子 でもだれも何も反抗しなかった。だからわたしが先導切って社長に直談判し

ただけ。私たちがまともに仕事が出来るところにするために。けどこの話を

週刊誌が嗅ぎつけて、記事になっちゃった。どこから情報が漏れたのか

わかんないけど。

裕美 うわさでは大橋専務がマスコミに情報を売ったっていいですよ。

優子

そんなの憶測でしょ。大橋専務は裏でそういうことする人じゃないし。

裕美

でも昔の社長一派と対立していた派閥の急先鋒だったんでしょ。大橋専務つて。結局セクハラが理由で前の社長一派が総退陣。結果、今の社長を筆頭

大橋専務たちに代替わりしたわけだし。

優子

まあね。でもあれから会社もだいぶ変わった。企業法規や社内倫理を管轄するコンプライアンス部も出来たし。

裕美

優子さんの功績大ですよ。ね、優子さん、腕広げてもらっていいですか？  
こう？

と両腕を横に広げる。それを裕美が魯班尺で測る。

裕美

『失脱』…こっからここまでの長さ、『物を失う』ですって。

といいながら、優子の顔をじっと見つめる裕美。

優子

…縄文顔ですよ。ね。優子さん。

突然なに言い出すのよ？

裕美 いかにも、毎朝、鹿の生肉食ってますって顔してますよね。  
優子 ひどつ！そんなこと言われたことないわよ！

やたらと優子の顔を撫で回す裕美。

裕美 絶対ご先祖様は、鹿とかイノシシ狩りとかしてましたよ、きっと。

だんだん、自制心が利かなくなって、優子をくすぐって  
楽しんでいる裕美。

優子 やめろ！酔っ払い、さわるなよっ！  
裕美 ごめんよお。ゆうこりん。

優子、裕美のおでこをたたく。

優子 …ご先祖様か…。  
裕美 …ああ、ほんっとおいしい、このお茶。

優子

台湾の高山茶。100g二千円。

裕美

たっかーつつつつっ！このお茶高すぎます！一気に酔いが覚めた。

優子

そりゃ、大切な仲間なんだから。このくらい高いお茶でもてなししないと

ね。(にっこり)

裕美

(嗚咽して)…大切な仲間…大切な…大切な…うわーんわんわんわん。

優子

どうしたの？

裕美

そんな風に言われたのは東京に出て来て初めてです。メイドのバイトで

もそんな言われたことないです。(最高にナマって)優子さん、あんだ、

ほんっとイイ人だのおー。これからもいい友達になってけれのー。

ワンワン泣いている裕美。

優子

うんうん、今日からいいお友達。…わかったから泣かないで…。

と、裕美を抱きしめる優子。

すると一層、声高らかに泣く裕美。優子、半分呆れて、



優子

あんた、泣き上戸かあ。…ああ…よしよし。泣いてすつきりしな。

裕美

(声出して泣いているが、いつの間にかスースー寝息を立てて眠っている。)

優子

ん、寝た?…ほんと、手のかかる子だ。

優子の腕の中で眠っている裕美。

(観客に)…こうして裕美とわたしとの距離はゼロになった。正直、こんなに急速に人と心が打ち解けるような経験は今までなかった。父は母親の愛情を私に注いでやることが出来ない分、「男らしい娘になれ」とばかり、男には負けないような遮二無二がんばる姿勢を叩き込んだ。おかげでたれ強い、「ちよつと、いや、大分…かなり、かわいくない女に育ってしまった。さて、その数日後、二つの管理職の辞令が張り出された…。

背景に

『第一営業部部长 崎原俊範

四月一日付けで 島根営業所所長を命ず』

そして、

『資材計画部部长 広田優子

四月一日付けで

台湾毬谷股份有限公司※設立事務所への出向を命ず』  
という文字が浮かび上がる。

※股份有限公司：日本の会社法で言う株式会社にあたる。  
崎原部長の人事は、ハラスメントに関してことのほか神経質なうちの会社らしい人事だった。

そして私。…まさかと思った。こんなに取締役の決断が早いとはおもわなかった。

…私の夢の始まりだった。…台湾。心がドキドキしていた。

暗転。ドキドキ、という心音が響く。

飛行機の飛行音。

暗い中に座っているイスに腰かける優子が浮かび上がる。  
息が荒い。その脇をCA(キャビンアテンダント(裕美役の役者  
が演じる。))が通る。

優子

フー、フー…あの…あと…どのくらいで着きますか、台湾。

機外の景色を伺う

CA

中正国際空港まで一時間少々でございます。

優子

え…そんなに…。途中トイレ休憩とありますか？

CA

?……ございませんが、お手洗いは、機内後方にご利用  
ください。

去ろうとするCAを引き止めて、

優子

すみません!…お願いがあるんですが。

CA  
いかがなされましたか？お加減でも…

もう、アクセントや文法以下、日本語が怪しくなっている。

優子  
ちよっと…あの…手、

CA  
…手？

優子  
うん。手…握らせてもらっていいですか？

CA  
はい？

優子  
(小声で)あの、飛行機初めてで、しかもちよっと…怖いんです…。

CA  
は、はい…。

CA、優子の手を握ろうと手を伸ばすと、突然、優子に手を握られるΣ。「ヒッ！」などと声を上げるが、すぐに体勢を立て直す。

優子、CAの名札を見つめて、

優子  
「上戸彩」って言うんですか、お名前？

CA 「綾戸」でございます。

優子 ああ、「上戸」さんね。

CA 「あや……と」……。

優子 ああ……あの……「上戸」さん、

CA ……………はい。

優子 ここまで成田から何時間ですか？

CA ……一時間半ほどでございます。

優子 じゃあ、新幹線の時間的には大体名古屋上空って言う感じよね。

CA すごく考えている。なにを言っているのかわからない  
ので、ただ微笑んでいる。

CA なにかお飲み物、お持ちいたしましょうか。

優子 あ…お茶。

CA はい、かしこまりました。ただいまご用意いたします。

CA 去る。

優子

あ、待って上戸彩さん！…行かないで！…あ、お茶やめる！コーヒー！…違う、ジュース…だから行かないで！置いてかないでーっ！…（反対側の席に顔を向け）…すみません。…飛行機怖くないですか？…ホント？…手、握っていいですか？…あ、寝ないで！…ほんと怖いよお。…マーマ。

（もう、失神しているような感じでうつむいている。ふと、顔を上げ、（観客に）…成田を発って約2時間半の搭乗時間。私には一日くらいの時間を感じた。

生まれて初めての飛行機。仕事で赴任地へ向かうためだから、しようがないんだけど。私の新任地は台湾。うちの毬谷商事の台湾現地法人を立ち上げるための事務所の責任者としての赴任だ。事務所は台北。台湾の首都である。ここで私たちは、生産拠点を台湾のどこにするのか、どうやってこの台湾という土地で、会社を運営していくのか、といったことを考えていく訳だ。

優子、腰ベルトを外し、椅子を立って話しはじめている。  
明るくなるとそこは事務所である。

赴任とは言いつつも、本社の直轄プロジェクトだから、1〜2ヶ月に一遍、本社に戻って、進捗状況の報告をしなければならない。私にとつてこれが一番つらい。仕事じゃなくて…飛行機。怖いなのって…。

蔡 美玲（ツアイ・メイリン）（裕美役の女優が演じる）が

「望春風」の鼻歌を歌いながら、事務所の整理をしている。蔡はまるで少女かと思うようなかわいらしい夏の格好をしている。白がまぶしい。

蔡は日本語が話せるが、中国語圏の人独特のイントネーションや癖のある日本語を話す。そのせいもある。

優子は蔡に対しては、極力、丁寧な日本語で話している。

つて

優子 你好（リーホー）、美玲！

蔡 リーホー。広田所長、台湾には慣れましたか？

優子 あー、ようやく。予想以上に食べ物がおいしくて…。

蔡 （間髪いれずに）太りましたね。この辺。

と、遠慮なく、優子の腕を持ち上げ二の腕をつまむ。

優子 ありがとう。おかげでまた一つ大人になったわ。

蔡 あ、免客氣(メンケーキ)。

蔡と優子、顔を見合わせにこにこ笑っている。

蔡が顔を外した瞬間、優子は自分で二の腕をつまんで、  
なんとも言えない表情を浮かべて、

優子 悲しいけど、なんて気持ちいいんだろう、ここ。

蔡 は？どうかしましたか？

優子 …いや、なんでもない、ない。今の歌きれいな歌ね。なんていう歌？

蔡 ああ、台湾の昔の歌。『望春風(ワンツォンフオ)』。

日本語で言うと「ぼう・しゅん・ふう」。

歌は大体こんな意味。

『真夜中に一人明かりの下にいる 爽やかな風が頬をなでる  
もう18になろうというのに嫁の行き手も決まらない』



素敵な人との暮らしをただ心で思っているだけ

やはりあの時出会ったきれいな顔立ちの彼なのかしら

あなたは誰なのと訊きたかったけれど

とうとう聞きそびれてしまった

今はただ心の中で琵琶を弾くようにあの人に

想いを馳せるだけだわあ』・・・。

優子

(満面の笑みで)ほお…。

蔡

一青窈(エイチンヤオ)、知ってますか？

優子

イーチンヤオ？

蔡

あー、モライナキ…、イーチンヤオ。

優子

ハオ！ 一青窈。

蔡

そうそう、一青窈。台湾で彼女がビールのテレビ広告に出ていたの知って

ますか？

優子

ううん。

蔡

(一青窈のCMのまねをする。)♪…我愛、麒麟一番絞麦酒。

拍手する優子。急に照れる蔡。

優子 そのテレビ広告の中でイーチンヤオが歌ってました。『ワンツオンフォ』  
あとで教えて。『ワンツオンフォ』

蔡 OK！あ、今日は午後から、台中地区の工場用地取得の打ち合わせをセツテ  
イングしてます。時間は「**1**」時からということで進めています、よろしい  
ですか。

優子 わかりました。誰が同行してくれますか。鄭君？

蔡 私が一緒します。阿明（アミン）、エンジニアだから、お金とか法律  
の話、全く…、（ちよつと詰まりながら）ちん…かん…こん…、

優子 …？ …ああ、「ちんぶんかんぶん」？

蔡 そうそう、ちんぶんかんぶんよ。

二人爆笑。

優子

でも、美玲がついてきてくれると、すごく助かります。私も日本で、台湾の  
会社の法律や経済の事、いろいろ勉強したり調べてたけど、実際ふたを開け

蔡 てみてこんなに難しいんだってわかってびっくりしちゃった。  
優秀な先輩が何言ってるんですか。

優子 そう、それもびっくり！美玲、うちの大学に留学してたんだってね。

この間、鄭君から聞いたわ。

蔡 しかも、経済学部です。勉強、むつかしかたー。

優子 本社でいろいろ難しい事面倒見てくれるから、助かってるんだけどね。

蔡 大橋専務、とても熱心。台湾の経済人ともつながりある人だし、台湾の文化に理解がある人だから、わたしたち台湾人も安心して仕事ができます。

優子 私も意外だった、あんなに大橋専務が台湾通だったって。

蔡 現地法人が立ち上がったら総経理になる人ですからね。ゴマすっておかないと。

優子 「ゴマする」？ そんな日本語までしってるの？

蔡 日本に留学するとき、おじいちゃんに教えてもらいました。

「日本人、ゴマする、一番喜ぶ」へいへいへい、事務所長様あ(と、手を  
摺り合わせる)…。

優子 失礼ねー、誤解よ誤解。

蔡 ここは、四階です。

再び、爆笑。

優子 ね、鄭君最近、急に元気ないみたいだけれど。すごく疲れた顔してる。

蔡 新しい仕事だから神経使っているんだと思います。

優子 鄭君、先月末の休暇明けからこの方すごく暗い顔してる。

蔡 タイツォンの実家の用事で帰ってたそうです。実家で何かあったのかも。

優子 美玲や鄭君の会社とは業務提携というかたちでもお世話になっ

きたけれど、今回できる新しい会社への出向してもらおうっていうことで、かなり負担かけてると思うから。大変だったら何でも言うってください。できる限りのことはしますから。

蔡 ……ありがとうございます。ところで…所長、わたしたちのことどう思ってますか。

優子 どう思ってるって？

蔡 仕事のパートナーとして、人間として、そして…台湾人と日本人として。

優子 所長と部下であっても、人間としては私もあなたも対等だとおもいます。ま

してや、台湾人と日本人という関係もね。一步会社の外に出れば、一緒にご飯食べて、楽しんで、男の人の話して、悩み相談して。

そうですか。

…。

蔡 わたしのおじいちゃん世代の人、日本の教育受けました。日本語も話せる。切ない歴史の遺産ね。

優子 そうですね。そういうところもあります。事実、私も学校では「反日教育」を受けていました。日本がアジアのあちこちでやったこと、悪い事もある。でも、それだけじゃない。もちろんいいこともあったと思うんです。その中で台湾という土地は生い立ちの歴史から言っても他の国や地域に比べて恵まれていたのかもしれない。…あ、なんか難しい話になってしまいましたね。

優子 鄭君、気になるね。

蔡 …所長、そんなに阿明のこと気になりますか？

優子 (ややポーっとして)うん、とても…。

蔡 阿明が好きなんですわね。

優子 …うん…、ん！何言わせるのよ！真面目だし、仕事もできるし、同じ

蔡 職場の仲間として好感が持てるって言う意味よ。  
優子 そうですか。…じゃあ、小優、私のこと愛してますか？  
(芝居がかって)ええ、とても。

二人、オーバーに抱き合う。

蔡 ね、何で鄭君のこと「阿明」っていうの？

蔡 ああ、「阿」って愛称ですね。なんとか「君」っていうのと同じ。

鄭偉 「明」(ツェン・ウェイミン)だから、阿明。

優子 じゃあ「小優」っていうのも？

蔡 はい！「かわいい、優ちゃん」って言う意味です。

優子 かわいい？

蔡 とつても！

やたらと照れる優子。

電話が鳴る。電話を取りに行く、蔡。

〈S#4 行天宮〉

蔡の声 喂（ウエイ）！呵……李律師（ハリリユイシー）！吃飽了没

優子 〈ツーパーオラメイ〉？（もしもし！あ、李先生（弁護士）！ご飯食べました？）  
鄭君、大丈夫かな……。 （奥に向かつて）……阿明！

……（観客に）……この事務所は、法律や資金関係の渉外と社内事務を受け持つ  
蔡美玲、技術面での渉外担当の鄭偉明、そして、私の三人の世帯。

わたしたちの手には負えないような大きい仕事は本社の大橋専務が東京  
からサポートしてくれている。

台湾に出てきて二か月ちよつと。前途多難ではあるけれど、まあ、順調  
に計画は進んでいると言っていると思う。台湾の空気、匂い、水……。私  
の身体の中にすーつと沁み込んでいく感覚をおぼえる。ありがとう、台  
湾。私の台湾。……マーマ。

優子

わが事務所の才媛・美玲のお父さんは足裏マッサージの先生、そしてお姉  
さんは台北の行天宮（こうてんぐう）にある占い横丁で占い師をしている  
という実に楽しい家族。

私全く信心深くない人間であるが、これからのことを知って行動するということも人をまとめる人間には必要だ、とのあまり美玲の熱心さに負けて、占い師をしている美玲の姉という人の所にとりあえずいつてみることにした。そこは地下道の中にあつて、まさに「占い横丁」という呼び方がぴったりの場所だった。

イスに腰かけている女性の前を通り過ぎる優子。

ふたたび向きを変え通り過ぎる優子。三たび通りすぎしなに、

女占い師 リーホー！

優子 あ、美玲？リーホーリーホー。

女占い師 ちがうよ。わたし、美玲の双子のお姉ちゃん。こんにちは。どうぞ。

優子 ……何で、わかったの？

女占い師 写真、妹から見せてもらった。こんな顔した会社の偉い人行くかも、つて。

優子 ……お姉さんも日本語大丈夫なの？

女占い師 はい。日本語覚えたのわたし早いです。妹よりも早い。しかも独学。

優子 ……すごいですね。



女占い師 …(優子の顔を覗き込んで)あなた美人で頭いいけど、人にだまされる顔して

る。微妙な口の形してる。

優子 いきなり、きついこと言うわね。

椅子に腰掛ける優子。

女占い師 …あなたおでこ広いねえ。この官禄宮のあたり、ここ血色良くて広い男の人、

すぐに立身出世する。

優子 あたし女ですけど。

女占い師 女性はいい主婦になれる。…何占いますか？仕事？対人関係？恋愛？

優子 …仕事…、と…対人関係。

女占い師 じゃあ、先に恋愛から占いますね。

優子 (結構凶星。)……なんで。

女占い師 あなた素直よ。まっすぐすぎる。すぐ顔に出ます。女子高生みたい。

優子 ごめんなさい。

女占い師 謝る事ない。そういうところがあなたのいいところ。…この紙に名前と生年

月日を書いてください。

と、占い師、ピンク色の紙を渡す。記入始める優子。  
書き終わったものを占い師見て、

『ヒロタユウコ 1977年8月…』

何か本を出して、計算のようなことを始める。

うん。大体わかった。じゃあちよつと手を見せてください。(優子の手をとつて)…ん?

しきりに手のひらを触ったりこすったりしている。

優子  
何か?

女占い師  
…あなた…、すごいよ。この歳でめずらしい。

優子  
そんなにすごいのか?

女占い師  
…めずらしい。手すべすべしてる。何使ってる?日本のクリーム?

優子  
あ、ああ。昔から使ってて肌に馴染んでるから。

女占い師 台湾で売ってる？

優子 …あ、売ってないと思う。日本に帰ったときまとめて買ってってくるから。

…今度プレゼントしますよ。一つ。

女占い師 ホント！ありがとうございます。じゃあ、お米の占い、サービスしてあげますよ。

…じゃあ、お話します。あなた今、人生の中で一番充実してるとき。人を束ねる仕事してますね。(手を見て)ここに出てるのが仕事の線。ここに

横からこの線がこう入ってきてる。これが今話したところ。次に名前と生年月日。…もともと頭のいい人。それは自分も周りも認めるところ。でも、頭の良さが及ばない部分、むしろ頭の良さが邪魔になるところで壁にぶち当たってる、絶対。

優子 うん。そう。

女占い師 五黄土星の人は今年が実現するいい年周り。運もあるけれど、あなたの今までの努力が身を結ぶ年。

優子、一人ほくそえむ。

…恋愛は…、近々良い年下の男の人があらわれる、絶対。

優子 どこで？

女占い師 この続きは米占い。いい運勢が出るように念じながら、ここに入っている

米粒を、隣に並んでいる三つのお皿の一つ一つ入れていってください。

こんな風に…（とかたちをやってみせる。）

優子 はい。

と、やってみる優子。

女占い師 はい。これであなたの運勢全部わかる。

皿の米粒を数え始める占い師。

そして、再び紙に計算を始める。

…うーん。わからない。

優子 今、わかるって言ったじゃない。

女占い師 そうじゃない。この彼氏の正体。彼氏じゃないかも。

あなたの運をゼロにする力を働かせる人。でも心配いらぬ。マイナス

じゃない。ゼロ。あなたすごく運強いから、ゼロで済む。すごい勢いで立ち直れる。

優子 喜んでいいことなの。

女占い師 …ちよつと微妙（微笑）

優子 なるよその微笑みは。

女占い師 笑顔、かわいいでしょ。行天宮一の笑顔。

優子 …？

女占い師 あ、自分のかわいらしさにちよつと酔っていた、すまん。

…あなた、近々大きな決断をする。自分の血に関係すること。

優子 血？血液？

女占い師 ううん、ルーツ。祖先から受け継いだ血のこと。

優子 …。

女占い師 あなた、すぐ決断する。でもその決断、吉。すごく最近のご先祖様

まもつてくれる。絶対。心配要らない。一瞬大きな壁にあたるけれど、

その壁、勝手に崩れる。あなた思うこと貫くだけで吉。絶対！

優子 …ありがとう…。うれしいけど…これって、どういうことなんだろう…。

暗転。

机の前で、居眠りをしている優子。

優子の頭の中に、東京での裕美とのやり取りが響く…。

裕美の声　ね、優子さん、腕広げてもらっていいですか？

優子の声　こう？

裕美の声　『失脱』…こっからここまでの長さ、『物を失う』ですって。

ハッと目を覚ます優子。

両手を拡げてみる。

奥から、蔡の声が聞こえる。

蔡の声　所長、わたし帰りますね。戸締りだけはしっかりしてください。所長は

美人だから、襲われないように。

優子

ご心配ありがとうございます！ 辛苦了！（シンコーラ）  
…襲われないように、か。

優子、「望春風」を口ずさむ。

と、そこへ、作業服の男がやってくる。

優子

鄭君。まだいたの？ 仕事はまだ終わらないの。

鄭

…所長、仕事、辞めたい。

優子

何よ！ 突然どうしたの？

鄭

この仕事、大きな仕事。わたし、無理。責任、無理。

優子

…とにかく話しましょう。

鄭はかたことに毛が生えたような日本語で話す。

鄭

最近、元気がないけど、どうしたの。ご実家で何かあったの？  
友達、みんな仕事すっかりやってる。わたし、仕事できない。

優子

…。

鄭 心、寒い。タイツオンからタイペイ出てきた。もう五年。疲れた。

田舎に戻りたい。

優子 ……彼女は言うてるの？

鄭 あ、彼女、いない。わたしひとりぼっち。タイツオンには幼なじみいるけど。  
仕事、大変？

鄭 この世界、技術発展早すぎる。新しいの、すぐ古くなる。また新しいの  
優子 でてくる。また古くなる。この繰り返し。どこまで行っても、きりがない…。  
疲れた。

優子 ……何言ってるのよ、男でしょ。あなた。

鄭 男？

優子 そう。男らしくどしっと。

鄭 男らしく、ってどういう意味ですか？男は、悩む、ダメですか？

優子 ……いや、そういうことじゃないけど。

鄭 日本、大きい。大人の国。台湾、小さい。まだ子供。台湾、お父さん日本の  
優子 言うこと「はいはい」きく。でもむずかしい。哈日族、日本大好き台湾人、  
日本のきれいなところ、いいところばかり。大変なところ、全然見えてない。  
わたし、台湾での毬谷商事の仕事ずっと関わってきた。やつぱり、わたした



優子

ち、日本人の下。どこまで行っても下。  
違うわ。少なくとも、私は違う。…初めて言うけど、私の半分…、

鄭、号泣する。

鄭

もつと、勉強したかった。技術も身につけたかった。でも、貧乏。うち、お金ない。勉強するのにもやはりお金。美玲みたい、日本に留学して立派なエンジニアなりたかった。でもできなかった。勉強したい、勉強したい、勉強したい…。…所長と同じ大学入りたかった。日本の技術、この眼、この手で確かめたかった。でも叶わない…。台湾、学歴物言う。勉強…。

- 57 -

肩を落とし、すっかり生気のない鄭。

背中が泣いている鄭。

優子、あまりの切なさに鄭の後ろに回り、

後ろから、鄭を抱きしめる。

優子

まだ大丈夫。その意欲があれば、会社に籍を置いたままで大学に通わせてあげ

鄭　　のことだってできるわ。私が大橋専務に掛け合っただけ。専務、きつとお金の面でもOKしてくれる。ね。だから、そんなに自分を卑下しないで。どうして、そんなに所長は優しいのですか。

優子　一緒に戦っている仲間じゃない、わたしたち。

鄭　　でも、わたし、台湾人。

優子　関係ないわ、そんなこと。誰がなんと言おうと、わたし、阿明のこと、守ってあげるから。

さらに強く抱きしめる優子。

ガタン、とドアにぶつかると、物を落としたような、そんな音が響く。

鄭、すつと優子を振りほどいて、

鄭　　わたし、帰ります。オツカレサマデシタ。

優子　…ああ、辛苦了。

優子、自分で自分を抱きしめる。

阿明…。

深いため息。 暗転。

〈S#6 足裏マッサージ〉

疲れた風の優子、会社に戻ってくる。

そこに、蔡が入ってくる。

優子、首を回したり、ふくらはぎをさすったりしている。

- 59 -

所長、疲れてるね。座ってください。指圧してあげます。わたしの父、指圧の先生。私もちよつとできる。気持ちいいよ。

優子

いいわよ。

蔡 遠慮しない。座って座って。

「いいってば」などと優子は言うものの、蔡は強引に、優子を椅子に座らせて、靴を脱がせる。

脱がせた靴を見て、

所長、がんばりすぎ。こんなに靴減っちゃって。

新しい靴買わなきゃね。

優子

(いやらしい笑い)フフフフ。

蔡

な、何するの美玲！

優子

めちゃくちや気持ちいいよ。フフフ。

蔡

痛くしないで…。

優子

痛いのが、ある瞬間に、すつつつつつつつごいサツパリと気持ちよくなります。楽になりたければ言うことききなさい。

蔡

グツと脚をつかむ蔡。

あー、お嫁にいけなくなる。

優子

行くな！

蔡

そんなにはつきり言うなよー。

優子

(指圧を始めながら)日本人、仕事熱心。しかも、真面目。あ、たまに不真面

蔡

目な人いますけど。

優子

いたた！

蔡

痛いですか。痛いところはこのツボが繋がっている内蔵や身体の一部が弱つてたり、病気になっているという証拠です。……ここ、胃腸。

優子

ストレスかなあ。

蔡

（間髪いれず）完全に食べすぎ。

優子

……すみません。

蔡

これから生活改善していけばいいです。

優子

好（ほーはい）……。

蔡

（ツボを庄しながら）台北（タイペイ）……宜蘭（イーラン）……台中（タイツォン）……花蓮（ホアリエン）……阿里山（アリスン）……台南（タイナン）……高雄

（カオシオン）……

優子

なに？

蔡

ああ、「美玲的ツボの覚え方」。足の形、台湾に似ています。この指の辺りがタイペイ。頭や脳のツボ……イーランは甲状腺・副甲状腺……タイツォンは肝臓……ホアリエンは胃・十二指腸……タイナンは結腸……カオシオン・タカオはひざ

…。ね？

優子 ああ、なるほど…あ、アリサンは何のツボ？

蔡 (アリサンのあたりを押しながら) おいしいお茶のツボ！

二人、笑っている。

優子 アリサンは小腸のツボ。

蔡 足の裏つてさ、身体のすべてが凝縮されてるって感じよね。

優子 そうです。からだのリモコンみたいなもの。外から刺激して、身体の中を治療する。

蔡 あー、毎日ハードだから、毎日、美玲に指圧してもらおうっかなー。

優子 それだけじゃだめよ。生活習慣を正さないとね。(くるぶしの下側を押し)

蔡 台東(タイトオン)…

優子 そこは…

蔡 子宮…

優子 …あ…ありがとう。

蔡 所長、わたし今度結婚します。

優子 おめでとう。…阿明に聞いてたわ。

蔡 会社、…やめることにしました。

優子 えっ？…それは困るわ！いまあなたに抜けられたら。これからが一番大事な時なんだから。

蔡 歹勢（パインセイごめんなさい）。会社にとっても大事なとき。すぐくわかります。でも、私にもとても大事なとき。

優子 …どうすればいいの。

蔡 会社は私の代わり見つけられる。でも、私にとって今の幸せな時には代わりはありません。今の幸せは今だけのもの。

優子 あなたの才能にも代わりはないわ。今の仕事にとって！

蔡 …じゃあ、女としての私の幸せ、保証してくれますか。

優子 …（むきになって）女としての幸せってなによ。

蔡 今の彼氏と共に人生を歩んでいく事。それだけです。

優子 そんな幸せ、いつまで続くかわからないじゃない！…

優子、勢いのあまり口走った一言に一瞬ハツとする。

蔡 …では、所長にとつての…いえ、小優にとつて「女の幸せ」があると思えば

それはなんだと思いますか。

優子 私にとつての女の幸せは…仕事ができて、しかもそれが世の中に役立つ事。

そのためにずっと…ずっと今までがんばってきたんだから。

蔡 それだつていつまで続くかわからない。

反論しようとする優子。が、蔡に制される。

人の幸せなんて世の中全体にして見ればちっぽけなもので、簡単にひねりつぶされるようなものかもしれない。でもそんなちっぽけなものほど一人の人にとっては大切なものだったりするのではないでしょうか。

優子 …。

蔡 この台湾の歴史がまさにそうだった。今ようやく台湾も幸せになれるときがきたような気がします。大きい小さいはあるかもしれないけれど、みんな幸せになるためにずっとがんばっている。いつか幸せなヒロインになろうってヒロイン。

蔡 幸せな一人一人が集まってこそ、初めて幸せな世の中になると思います。



優子

もしかして、幸せになれないかもしれない。でも、きつと幸せになれるんだって信じたんじゃないですか。自分のこと信じてあげたいじゃないですか。大丈夫よ。あなたはきつと幸せになれる。…ごめんなさい。とても失礼な事を言いました。

優子、紅包（ホンパオ）を出し、蔡に差し出す。

…おめでとう。幸せになってね。短い間だったけど、本当にありがとう。多謝（ドウウシヤ）。

蔡、紅包を受け取り、

蔡

小優、ありがとう。あなたも幸せになってください。人間はきつと幸せになるために生まれてきたんだと思います。

優子

もしかしたら…つらい苦しいことは、いつか来る幸せを何倍にも幸せに感じるようにするための神様の粋な計らいなのかもしれない。

蔡、大きくうなづく。

蔡、優子。しっかりと抱き合う。

暗転。

明かりが入り、優子が浮かび上がる。

長い会議机が横たわっている。

優子

その数日の後、美玲は会社を去った。美玲の後任者の選抜のことや、この台湾での数ヶ月間の状況報告のために私は東京の本社に来ていた。ところが、本社で私を待っていたのは、台湾プロジェクトの頭である大橋専務ではなく、コンプライアンス部の査問であった。

優子、机の前の椅子に腰掛けている。

コンプライアンス部部长(以下「CPM」)が入ってくる。

ただし、部長は声のみ。

優子、軽く目礼をする。

C P M

どうも、お疲れ様です。お忙しいところ申し訳ありません。

実は今日お呼びだてしたのはほかでもない、台湾の事務所でちよつとした問題が発生したという情報を得たものですから、その調査・聞き取りということで、現在の責任者である、広田所長にお話を伺いたいと思ひまして。

優子

問題って？

C P M

入ってください。

奥から、スーツに身を固めた鄭が入ってくる。

優子

阿明！

鄭が優子の隣に腰かける。

C P M

実は、台湾の事務所において彼の人権に関わる問題があったと報告がありました。こと、海外生産拠点の大きなプロジェクトの要での問題ですから、

迅速に調査・対応すべきと判断しました。

優子 これは、どういうことですか。

C P M 鄭偉明さん、あなたはあまり日本語をお話になるのがお得意ではないという

ことでしたから、こちらの質問に対して、はいかいいえで答えてください。  
わかりましたね。

鄭 はい。

C P M 結構。：事務所設立から半年が経過しましたが、この間あなたは仕事上

の大きなミスを犯しませんでしたか？

鄭 いいえ。

C P M では、小さい問題はありましたか？

鄭 はい。

それを、常に上司に報告していましたか？

鄭 はい。

C P M 上司は親身に相談にのってくれましたか。

鄭 はい。

：相談以上のことをされたということはありませんでしたか？

優子 それはどういう意味ですか！

C P M

表向き相談ということで、プライベートな部分に立ち入ったことをされたことがありますか。

反応に困る鄭。

C P M

答えにくいでしょうが、あなたの人権に関わることです。正直に。

優子

さつきから、人権人権って。台湾の事務所で鄭君に対して人権蹂躪があったということですか！

C P M

疑わしいと思われる言うことです。そのための調査です。

優子

調査などと言わずに、査問とおっしゃればいいでしょう。

C P M

…こちらに上がってきた報告では、業務上の悩みを鄭さんは抱えていた。それを上司である広田所長に数度相談をしていた。始めのうちは親身に相談にのっていたけど、そのうち彼の精神状態が弱っているところに対し、

広田所長は必要以上の身体的接触をしてきた。

優子

そんなことでたらめです！

C P M

たまたま、それを目撃していた人がいたんです。七月十日、台湾事務所のビ

優子

C P M

ルの警備員です。彼は当然日本語が分かりません。直前になにがあったのかはわかりませんが、あまりに遅い時間まで電気がついていたので、事務所を巡回してみた。すると、泣いている鄭さんを背後から抱きかかえるようにしているあなたの姿があった。警備員は「台湾人」「お金」「OK」そして…「関係」という単語を耳にしている。

こんなの、調査でも査問でもない。

鄭さん、改めて伺います。あなたは、広田所長に対し上司と部下という関係を越えた感情を持ったことはありませんね？

鄭

…はい。

優子

…。

C P M

この一連の広田所長の行動は、あなたにとって、不本意な苦痛であったということですね。

黙ってうなづく、鄭。

なにぶん状況証拠が乏しく、決定的に処罰対応になるものではありません。法律の大原則は「疑わしきは罰せず」です。しかし、なにか大事になってか

らでは遅すぎる。今回の問題は、セクシヤルハラスメント、パワーハラスメント、そして、相手が台湾人であるということにつけいろうとした、看過できない問題です。以後、広田所長ご自身も身を律して職務についていただきたい。なお、これは本来私の口からお伝えすることではないのですが、十月三十日付けで本社に復帰していただくことになるそうです。…。今日はお忙しいところをありがとうございます。鄭さん、遠路はるばるありがとうございます。…では。

無言の二人。

優子  
なによ、これ。…何かなんだかさっぱりわからない。私が何したって言うのよ。

鄭  
…所長…。

優子  
なに、阿明…、鄭さん。

鄭  
すみません。…オオハシセンム。

優子  
大橋専務？

鄭  
…大橋専務に言われました。

優子

…どういうこと。

鄭

…六月二十二日。大橋専務に東京に来るようにと言われました。

優子

…六月二十二日？…あなたが実家に帰っていた日。

鄭

あの日の夜、私はトウキョウにいた。ムコウジマというところ。

バックに端唄が流れている。

大橋専務、私に背広を新調してくれていた。

『日本人でも向島の料亭で遊ぶなんて、ちよつとそつとじゃできないんだよ』と喋っていた。うれしかった。きれいな服を着た日本人の女の人。ゲイシャさん。ドキドキした。

「どうだい会社は。広田くんのような、気の強い女が上司だとやりにくくはないか。」

優子

大橋専務…

鄭

まあいざれ私は君を台湾毬谷股份有限公司の副総経理にしたいと

考えている。やはり台湾のことは台湾の人間に任せないと。」「  
と喋っていた。



自分の顔がこわばっていくのを感じる優子。  
顔をさすったり、口を押さえたりしている。

鄭  
そして、専務は、

『姐さん、この男は台湾から来た鄭君だ。将来世界を背負って立つ実業家になるから覚えておきたまえ。そうだ、「とらとら」をいこうじゃないか。姐さん、「和藤内だ」！』

端唄「和藤内」が流れる。

優子

和藤内…。「国性爺合戦」の主人公ね。

鄭

中国の清朝が台湾を占領する以前、台湾を治めていた国性爺・鄭成功の話をもとに、歌舞伎になった話。鄭成功は鄭芝竜という東アジア一といわれた海賊の父と長崎に住む日本人の母との間に生まれた。

優子

…。

鄭

「ふたたび、鄭が台湾の表舞台に立つんだぞこんな結構なことはないじゃないか」…専務は、ネクタイをゆるめて、芸者さんと「とらとら」という

お座敷遊びを芸者さんと始めました。

簡単だから、お前もやれといわれました。でも僕にはできませんでした。そして専務は私に近づいて、所長によくないことをさせて、台湾プロジェクトから所長を外す作戦に手伝うように、と言われました。（嗚咽）

もう少しで私の夢が叶う。信じ続けてきたことが今、目の前まで近づいてきた。…私は…専務の言うとおりにしました。…こうして、所長をだまして…、自分の出世のために…。私は…、私は…

優子、迷うことなく鄭を正面から抱き寄せる。

急速な暗転が訪れる…。「和藤内」が響く。

ぼーっと佇んでいる優子。

浜松町近くの日の出水門近くのスペース。

優子、携帯で電話している。

優子

うん、急だけど。でもこれが今のあたしに一番いい決断なのかもしれない。……また見たのよ。母さんの夢。今までは近づくとずつと消えてたんだけど

どね、昨日の夢じゃ、ママ、しつかりと抱きかかえてくれた。…ハバ。ごめんね。一人にして。わがまま聞いてくれて、ほんとにありがと。じゃあ切るね。…うー、寒い。

裕美の声

誰かいたら、返事してください。

優子

…だれもいませーん。

裕美の声

あ、そうですか。失礼しました…。

優子

ちよつとちよつと、いるわよここに。返事してるでしょうが。

裕美、下手奥から登場する。暗いので足元がおぼつかない。

裕美

優子さん？…ああ、よかった。どこ…ですか…？真つ暗でわかんない。

優子

ここよ。

と優子、裕美に近づき、腕を組んでもとの場所に立つ。

裕美

夜になるとずいぶん涼しくなりましたね。優子さんあったかい。

…へえ、こんな場所あったんですね。…あ、レインボーブリッジ！

優子

お台場も！ほわーっ……。奇麗ーっ！これだけ暗いとよく見えますね。  
…元気だった？

裕美

元気ですよ。みたらわかるじゃないですか。最近本社に来ててもご飯誘ってくれなくて寂しかったんですよ。

優子

うん…、ごめんね。台湾のプロジェクト、忙しくてさ。…あ、そうだ、彼氏で来たんだって？

裕美

んふふふ…。あんまりかっこよくないですけどねえ。どうしたんですか？ 急にそんなこと言ったりして。

優子

…夕べね、夢見たのよ。  
夢？

優子

私はまだこんなちっちゃな頃の風景。母親がね、こっちに向かって手をたたいてあたしを呼んでるの。「小優！こっちおいで。」って。

裕美

『しゃおゆう』？

裕美

日本語で言うところの「優ちゃん」っていう感じかな。  
日本語？

優子

…あたしの母、台湾人なの。

裕美

……。

優子 ……うん。

裕美 ……小さい頃に亡くなった…？

優子 私がちょうど四つになったばかりのとき。1981年8月22日。

台北から母の実家のある高雄へ行く飛行機が、苗栗(ミャオリ)縣三義(サンイー)に落ちた。

裕美 1981年に落ちたって…、もしかして向田さん…、

優子 そう。あなたの大好きな向田さんが乗ってた飛行機。

裕美 ……

優子 私の母、あの飛行機に乗り合わせてたの。里帰りのために。

裕美 ……そうだったんですか。

優子 私が生まれてから一度も里帰りしていなかったし、これから私が学校へ通うようになったらそんなに簡単には帰れないだろうから、お墓参りも兼ねてって。…で、お参りに行く前にお墓に入っちゃった…ふふふ。

私も実は向田邦子さんがすごく好きなの。…だって、母が最後に見ていた同じ風景を向田さんも見ていたのよ。母と向田さん、どんな思いで、亡くなっていたんだらうって考えたら、すごく胸が痛くなってるね。

向田さんの写真を見たり、小説やドラマを見ると、まるで、母が私に

何か語りかけてくれるような気がして。

優子、胸にさした二つの黄色いバラのうちの一本を抜いて

裕美につけてやる。

裕美

黄色いバラ……。向田さんが大好きだった、黄色いバラですね。

優子

母といつも一緒にいられるような気がして……。ママといっぱい遊びたかったあ……。一緒にお出かけして……。お買い物して……。いっぱいお話して……。いっぱいママの胸で泣かせて欲しかった……。

裕美、優子の手をしっかりとにぎる。

あたし、こうみえても弱いから……。気抜くとすぐだめになっちゃうから……。わたし以外の人間はすべてライバルだって言い聞かせて、がんばった。めちゃくちゃがんばった。がんばった証しが見えると、父、喜んでくれて。父の喜ぶ顔がまた見たくなくて、がんばって……。

裕美

もうがんばらなくていいですよ。こんなにがんばったんだもの。

ドラマなんかで言えば、主役級の仕事しましたよ。ヒロインですよほんと。しかも、美人ヒロイン。

優子、涙顔ながら、裕美の一言に笑っている。

ヒロインさん、第二幕はどこにします？東京？それとも、どこか別のところ？

次の舞台も…台湾にする。私の母の生まれた場所、そして眠っている場所台湾。私の中に流れている台湾の血をあつ土地がやさしく引き寄せてくれるような気がするの。

裕美　そうですか。よかった、優子さん。

優子　ほんとにいいのかな。

裕美　いいですよ。なんてたって自分の人生なんですもん。大体、まだ三十前なんですよ！わたしたち。

優子　ちよつと、微妙。

裕美　微妙なお年頃ですわね。ご主人様！

優子　ね、まだやってるの？やめたほうがいいよ、あれ。

〈S#9 再見〉

裕美

いいえ、二十代前半で通用するうちは、やめません。

優子

(庄内弁を真似して) いいとして、はずがしのおー。

裕美

やめてくださいよお

と、からかいあっているところに、遠く汽笛が聞こえる。

汽笛に、振り向く二人。

ゆっくりと暗転。

暗い中で、フェリーの汽笛がなる。

優子がゆっくりと浮かび上がる。

優子

台湾。基隆(キールン)。22:00。

私は月明かりに照らされた港に立っていた。私をここまで運んできた船を私は見送る。船は岸を離れていく。

沖縄へ向かうその船は風いでいる海面に一本の航跡を引きながら離れていく……。まるで日本とこの台湾をつなぐ「へその緒」のように、太く、太く



…。再見、日本（ザイゲン、リップン）。きつとまた、日本。私はここに立っている。私の匂いがするこの土地で私は当分生きてみようとおもう…。

優子、髪を後ろできっちり束ねる。

続いてもう裕美がすこし離れて浮かび上がる。

裕美

シート…。

そつと、誰かの手を引きながら明かりの中に入ってくる裕美。

（後ろを振り返り）あ、東京タワーの先つちよ…。…静かだねえ…  
こうやって夜の海でぼんやりするのって久しぶり…。

…子供の頃、学校でいやなことがあるとうちの近くの浜辺に行って日が暮れるまで海を眺めてたの。ずつと沖を進む船なんか見て「あの船どこ行くんだろう」とか「この海の先にどんな人が住んでるんだろう」とか想いをめぐらしたりしてさ。波の音も心地よくてね。…そのうちね、自分が何で悩んでた

のかもわかんなくなってきたさ…。

レインボーブリッジが見えるこんな東京の竹芝の夜の海もあのいなかの  
浜辺につながってるんだよね…。

優子

裕美、その手、離しちゃだめだよ。その恋、お茶のお盆みたいに簡単に  
落っこしちゃだめだからね。

裕美

はい。：優子さん、今日の海、風いでますね。穏やかな船出できそ  
うですか？

優子

そうだねえ、一人の船出にはちょうどいい静かさだね。  
：裕美、いつかまた！私はここにいますから。

裕美

優子さん、私はここにいます。また会う日まで。優子さんのこと、忘れませ  
んから。

優子

私も忘れないから、裕美。

裕美

はい。

優子・裕美 私たち、：ヒロインだから。

汽笛の音と飛行機の音が交差する。

裕美と優子、ゆっくりと近づき、からだを寄せ合い、頬をびったりと寄せて、前を見ている。

〔参考資料〕

哈日杏子の爆烈台北 哈日杏子著（アルク刊）

旅の指さし会話帳⑧ 台湾 片倉佳史著（情報センター出版局刊）

台湾カフェ漫遊 アイビー・チェン写真 泉美咲月文（情報センター出版局刊）

フラヌール⑮ 台湾 朝ごはんがおいしい街（情報センター出版局刊）

文春文庫 向田邦子の青春 向田和子編著（文藝春秋刊）

新潮文庫 向田邦子の恋文 向田和子著（新潮社刊）